

行	名称	ふりがな	解説
り	律速段階	りっそくだんかい	化学反応などの動的過程がいくつかの段階によって構成されているとき、そのうちの一つが他の段階に比べて緩慢に進行することで、全過程の進行が實際上支配されてしまうような段階をいう。
	流動性	りゅうどうせい	固まる前のコンクリートの流れやすさを示す性質。コンシステンシー*とは不可分の関係にある。コンシステンシーが主として水量の多少による流れやすさ、軟らかさを評価するのに対し、流動性という場合には水量の影響のほか、セメントや骨材粒子間の摩擦、かみ合いなどの影響が考慮される。
	粒度調整セメント	りゅうどちょうせいせめんと	多量の混合材*(有機混和剤)を用いて、低水セメント比で流動性*に優れた高強度のコンクリートを得ようとするセメントのこと。セメントの粒度分布をブロードにし、1μm程度の微粒をシリカフューム*、石灰石*粉、分級フライアッシュ*で、また、50μm以上の粗粒をミルもどり粉*、その他の粉末で置き換え、セメントを最密充填が可能な連続粒度分布に調節することで造られる。
れ	レオロジー	れおろじー	物質の変形と流動に関する科学と定義される。1922年アメリカの化学者ビンガム(G.Bingham)が提案した名称で、ギリシャ語のreo(流れるの意)に由来する。流動学と訳されることもある。レオロジーで扱われる対象は、化学的に複雑な組成または構造を持ち、力学的にも固体と液体との中間的性質を示すようなものが多い。これらの物質や、その物質を含む溶液について観測される現象としては、異常粘性、塑性、チキソトロピー、粘弾性などがある。
	瀝青炭	れきせいたん	光沢ある黒色を呈し、黄色の長炎をあげてもえる最も代表的な石炭のこと。石炭化度は褐炭*と無煙炭*の間。 →褐炭*
	連行空気	れんこうくうき	→エントラップドエア*
ろ	ロジン・ラムラー式	ろじん・らむらーしき	ロジン(Rosin)とラムラー(Rammler)が、1933年に石炭粉砕物の粒度分布をあらわす関数として見いだした計算式。粒度の通過分積算重量割合をyとすると $y=1-\exp\{-(x/x')^n\}$ となる。ここでnは粒度分布関数、x'は粒度特性値(代表粒径)であり、この2定数で粒度分布が定まる。x軸とy軸にlog Dとlog {log(100/R)} の目盛りをつけたロジン・ラムラー線図にプロットすると直線となり、勾配nは粒度の均一性をあらわすことになる。 →n値*

ロータリーキルン

ロータリーキルン

セメント原料*を焼成*する窯。耐熱レンガを内張りした鋼鉄製の円筒管(径3～6m、長さ60～200m、傾斜2.5～5%)をしている。原料は上端より供給され、下端で燃料を燃やして加熱する。原料は窯の回転に伴って徐々に下方へ移動し、高温焼成される。

→図参照

クリンカー鉱物生成工程

